



助成金事業報告

助成金事業報告

生きがい情報士は、保健・医療・福祉の領域だけでなく、広義の福祉情報ともいえる余暇・就労・生涯学習・フライナンシャルなど多彩な生きがい情報を提供する能力と、相談者のニーズに応じて生きがいづくりを支援するコーディネート能力を持っている人材です。

本財団が十数年に亘り培ってきた、この人材養成事業のノウハウ等を基に、平成20（2008）年度には、独立行政法人福祉医療機構助成金（長寿社会福祉基金）の助成を受け、社会福祉従事者に対する生きがい情報研修事業を実施いたしました。

この事業は、社会福祉従事者に対し、この生きがい情報士を養成するためのプログラムでの研修を行うことで、より高度な専門的知識やノウハウの習得と援助技術の向上を図り、適切な福祉サービスを提供していくことを目的とするものです。

「生きがい・情報力を高める」というキャッチフレーズのもと、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡の5会場において、2日間の研修会を実施いたしました。講師は生きがい情報士養成テキスト執筆者及び生きがい情報士指定養成校での講師の方々が務め、仲間作り援助技術からネットワーク技術までという、幅広い研修会となりました。

事業内容

（1）社会福祉従事者に対する生きがい情報研修会の開催（5カ所）

① 開催目的：社会福祉従事者にとって、高齢者の生きがいについて問題意識を持ち、積極的に支援に取り組む態度と能力が特に必要とされるという考え方から、社会福祉従事者が生きがい情報とその支援に関する専門的な知識・技術について、短期間で集中的に習得するため。

② 開催日：平成21年2月14・15日

3月8・9日、14・15日、17・18日、21・22日

③ 開催場所：仙台会場（宮城県仙台市）、東京会場（東京都江戸川区）、名古屋会場（愛知県名古屋市）、大阪会場（大阪府大阪市）、福岡会場（福岡県福岡市）。

④ 参加人数：社会福祉従事者 約80名

⑤ 参加費：無料

	1日目	2日目
午前10:00開始		① ネットワーク技術 I
午後1:00開始 午後5:00終了	① 仲間作り援助技術 I ② 仲間作り援助技術 II	② ネットワーク技術 II ③ ネットワーク技術 III

今後に向けて

今回の事業では、社会福祉従事者のための研修事業ということで、業務にすぐに活かせる技術が習得できること、いわば「現場力」を付けてもらうことを一番のねらいとしました。そこで、生きがい情報士の養成カリキュラムの中から、特に地域で高齢者の生きがい支援などに関わるボランティア等にとって必要とされる技術である2つの技術、「仲間作り援助技術」と「ネットワーク技術」をメインの研修テーマとしました。

本研修事業を実施することにより見えてきたことや、この事業がきっかけとなってある展開を見せていることがありました。大きくまとめると次の2点です。

① 2つの技術の現場での有効性・有益性の高さ

今回実施した研修への参加者から「仕事で活用したい」「現場で役立つ技術を教えて頂いた」「現場で使える技術を学ぶことができた」「今後の業務でとても参考になった」「業務の幅が広がる」「グループづくりを職場で活用したい」など、**現場において「使える・役立つ」というコメント**が多くかったことから、仲間作り援助技術及びネットワーク技術という2つの技術は、社会福祉の現場において非常に有効性・有益性が高い技術といえました。

② 参加者自らによるスキルアップとネットワーク化への動き

今回の参加者から、「帰ったら復習したい」「仕事でPCを使用しているが、使いこなせていないことがよくわかった」「スキルアップに努めたい」「継続して、研修会を実施して欲しい」など、**自らの技術面での能力不足と、さらなる研修の必要性を強く認識したコメント**が多くだったので、情報・ネットワークに関する技術については、より高いレベルのスキルが求められています。また、参加者同士の情報交換や今後の活動のつながりを求める声など、地域で積極的にネットワークを作って行こうとする動きが生まれています。

今回の生きがい情報士を養成するためのプログラムでの研修は、生きがい情報士の現場で有効利用できることがこの研修会で実証できたようです。皆さんが現場で活用していただきたいと思います。この研修内容は、今回同封いたしました「情報検索技術」冊子に掲載されておりますのでご活用ください。ご不明な点がありましたら財団までお問い合わせください。